



南の目指す生涯学習社会

～みんなが元気に みんなが幸せに～

令和2年度第73回優良公民館表彰 受賞おめでとございます

文部科学省が行っている令和2年度「第73回優良公民館表彰」を十文字西公民館（近孝夫館長）が受賞されました。「気軽に立ち寄れる魅力ある公民館」をテーマに掲げ、安心して暮らし続けることのできる地域づくり等の実践が受賞に結びつきました。同館の特徴的な取組として、自主運営組織「十文字西地区交流センター運営協議会」を設立し、住民が主体的に企画運営を行う「交流センター事業」の推進があります。こうした取組による成果として、公民館来館者数の増加や防災等の自治意識の高まり、関係機関との連携によるスムーズで充実した事業の実施等が挙げられます。近館長は、来年度の新しい取組として旧十文字西中学校体育館を活用した運動スペースづくりと、各自治会を訪問し会話を楽しみながら相談等を行う「移動式公民館」の実施を構想しているそうです。今後も十文字西公民館の取組に大いに注目していきたいと思えます。



ワークショップでの意見交換



ゲームを通じた地域間交流



高齢者と子どもの共同作業

アドバイザーコラム：学校・家庭・地域の連携・協働 12

釈迦内サンフラワープロジェクト

社会教育アドバイザー 小笠原 重夫

先月、大館市教育委員会生涯学習課が開いた「学校・家庭・地域連携総合推進事業『担当者スキルアップ研修会』」に講師として参加しました。

その際、同課の担当者から、釈迦内小学校が行っている「釈迦内サンフラワープロジェクト」について、詳しく話を聞く機会がありました。

プロジェクトは、釈迦内小を中心に地域ぐるみでヒマワリの栽培、食用油やドレッシングの製造加工、販売に取り組みながら、地域全体の活性化に繋げようという取組です。

「すべては未来を担う子どもたちのために」というスローガンが示すように、このプロジェクトの主役はあくまでも児童。栽培から製造加工、販売までの一連の流れを体験させることで、児童に将来の職業について考えさせ、地域住民との交流を通じて地元への愛着をもってもらうことを、釈迦内小では目指しています。

販売で得られる収益は、6年生が修学旅行で行う体験学習費に充てられるそうですが、今年度は新型コロナウイルスの影響で販売を断念し、クラウドファンディングで資金を募り、加工品をその返礼品にしたということです。

このプロジェクトは、学校と地域が‘連携・協働’する地域づくり活動の成功事例の中でも、おそらくトップランナーといえるものでしょう。

このプロジェクトのもう一つの素晴らしいところは、スタートしてちょうど10年が経過した現在も、少しも色あせることなく、ますます磨きがかかって継続されていることです。それは、前記スローガンのもと、プロジェクト実現に向けて学校を力強く後押ししようとする、地域の皆さんの熱い思いがあったからに他なりません。

私は、このプロジェクトの10年後を、とても見てみたい気がしています。